

緑化だより

No.227

令和 8 年 6 月号



ノハナショウブ

- 季節の花(麦(ムギ))
- 水生昆虫の話
(ウルマーシマトビケラ)
- 小さな世界こけ
(アツブサゴケと
アツブサゴケモドキ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

広島県緑化センター

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>



広島県
緑化センター
二次元コード

季節の花

麦(ムギ)

「柵起(くへご)しに 麦(むぎ) 食(は)む 小馬(こうま)の
はつはつに 相見(あひみ)し児(こ)らし あやに愛(かな)しも 」

作者未詳 東歌 14-3537

これを訳しますと

(馬の柵から首を伸ばして、やっとの思いで麦を食べる小馬のように、 やっとの思いで逢えたあの子が恋しくて とても逢いたくて愛おしい。)

この歌は馬が柵越しに麦を食べたいと思う気持ちと、恋しいあの人に逢いたいと思う心と同じようにこらえて詠っている歌です。穀物が読まれるのは農民の歌を集めた東歌です。

ムギ類はイネ科の穀物です。原産地は中近東の乾燥地で、日本には自生種はありません。大きく分けて、大麦系、コムギ系、ライムギ系に分けられ、日本には弥生時代に中国大陆から朝鮮半島経由で伝わったとされますがライムギ系は伝わりませんでした。

世界でも最も古くから栽培された五穀(麦、粟、稗、豆、稲)の一つで、昔から重要な穀物です。

秋に種を蒔いて、翌年の5月末～6月にかけて麦の穂が黄色に熟し、さわやかな初夏が収穫の季節です。

この時期は「麦の秋」または「麦秋」と呼ばれています。

「竹の秋」も同じ時期を表し、竹の葉が茶色になり落葉し 筍がぐんぐん伸びて成長します。

「麦秋」も「竹の秋」も俳句の季語となっています。(上村)



初夏の麦畑



麦の穂

水生昆虫の話

ウルマーシマトビケラ

恵みの雨が緑化センターの新緑をいっそう鮮やかに染め、しっとりとした美しい風景が広がる季節となりました。梅雨の晴れ間には心地よい風が吹き抜け、水辺の生き物たちも活発に動き始めています。

さて、今回は緑化センターの清流でたくましく暮らしている水生昆虫「ウルマーシマトビケラ」の幼虫にスポットを当ててご紹介します。

日本全国の河川で観察することができるシマトビケラ科の「ウルマーシマトビケラ」は、主に河川の上流から中流の早瀬(流れの速い浅瀬)に生息しています。川底の石をひっくり返すと、小さなイモムシのような姿をしたウルマーシマトビケラの幼虫が見つかります。

「なぜ流されないの?」と不思議になりますが、その秘密はお尻の先端(尾脚)にあります。



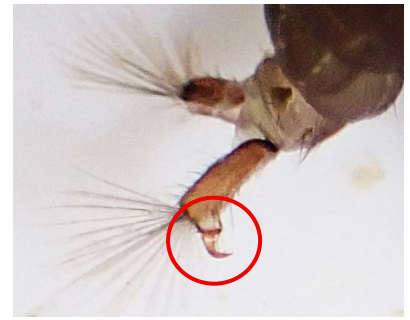
ウルマーシマトビケラ

そこには「一対の鋭い鉤爪(かぎづめ)」があって、自ら作った巣の壁や石の表面にガッチリと爪を引っ掛けています。この強力な命綱で体を固定しているからこそ、どんな急流でも流されることなく踏ん張ることができています。

幼虫の体を横からよく観察すると、お腹の側にフサフサとした白い毛のような「エラ(気管鰓)」がたくさん生えているのが分かります。このエラで、流れてくる新鮮な水から酸素を取り込んで効率よく呼吸をしています。

川底の石の隙間に、口から出す特殊な糸を使って砂粒を紡いで頑丈なトンネルのような巣を作ります。その巣の入口にキレイな「捕獲網(ネット)」を張って、上流から流れてくる藻類や落ち葉の破片などの有機物(デトリタス)を上手にキャッチして食べてくれるおかげで、川の水は濁らず、美しく澄んだ状態が保たれています。こうした水生昆虫がたくさん生息していることが、豊かな清流である証拠なのです。

私たちが普段何気なく眺めている美しい小川には、こうした「小さな水生昆虫」たちの休むことのない営みによって守られています。緑化センターにお越しの際には、小川の中で清流を支えている彼らの暮らしに、ぜひ思いを馳せてみていただけると嬉しいです。(西村)



ウルマーシマトビケラの鉤爪

小さな世界 こけ

アツブサゴケとアツブサゴケモドキ

アツブサゴケはアツブサゴケ属で雌雄異株。

山地の岩上や樹幹上に生育し、茎は岩などに密着し、枝分かれした枝は立ち上がります。

枝の長さは2~3 cm、幅は葉を含めても約1 mm程度。

葉は光沢があり、茎のまわりに密につき、長さ1.5~2.5 mm、広披針形で深い縦じわがあり、葉は全縁で葉先は細く尖っています。中肋は葉の2/3くらいまでです。

アツブサゴケモドキはアツブサゴケモドキ属で雌雄異株。

山地の樹幹や岩上に生育し、枝の長さは1~3 cmで立ち上がります。葉は茎のまわりに密につき、長さは1.5~2 mm、三角状の披針形で深い縦じわがあり、葉先は細く尖り、弱い鋸歯があります。中肋は葉先近くまであります。

どちらのコケも細筆のようで、見た目大変よく似ていますが、アツブサゴケは乾燥すると葉は茎に密着します。アツブサゴケモドキは乾燥しても茎に密着しません。

両種は広島県では東部の石灰岩地帯に多く、緑化センター管理事務所前のオオモミジの石垣でどちらのコケも見ることができますが、オオモミジの移植の際についてきたものかもしれないかもしれません。(山根)



アツブサゴケ



アツブサゴケモドキ

研修会のご案内

○6月 7日(日)『自由工作塾』

自然の素材で自由に工作

※ 自由参加(随時受付)、材料費 1 作品 100 円

10:00～15:00 レストハウス前

講師:緑化センターボランティア

ふれあい湧

○6月 7日(日)『ネイチャーゲーム』～自然と遊ぼう～

自然の中で遊びを体験します

※ 自由参加(随時受付)、無料

10:00～15:00 レストハウス前

講師:広島市

シェアリングネイチャーの会

○6月 10日(水)『常緑樹の剪定講座』

基本を学び、屋外で実技を行います

※要予約(先着 15 名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参

10:00～12:00 学習室 集合

講師:NPO 法人 樹木医ひろしま

藤井 香子

○6月 14日(日)『6月の植物観察会』

散策路を歩きながら植物を観察します

※自由参加、無料

10:00～12:00 学習展示館前 集合

講師:森林インストラクター

野田 圭一

○6月 20日(土)『落葉広葉樹の見分け方』

実物の枝や葉を用いて見分け方を学びます

※自由参加、無料、ルーペ持参

10:00～12:00 学習室 集合

講師:森林植物研究家

埴田 宏

○6月 21日(日)『梅雨のきのこ入門観察会』

園内を歩きながら生えているキノコの説明を聞きます

※要予約(5/21(木)～6/7(日)の期間

HPより事前申込み、抽選で15名) 無料

10:00～12:00 学習展示館前 集合

講師:きのこアドバイザー

川上 嘉章

○7月 1日(水)『7月の植物観察会』

散策路を歩きながら植物を観察します

※ 自由参加、無料、

10:00～12:00 学習展示館前 集合

講師:森林インストラクター

駄賀 恒男

○7月 5日(日)『夏のきのこ教室』

園内でキノコを採集し、午後、持ち寄ったキノコを鑑定します

※ 自由参加、無料、採集用かご持参

10:00～14:00 第3駐車場 集合

講師:きのこアドバイザー

川上 嘉章

♪☆お知らせ・ご案内 ☆♪

・ひろしま「山の日」県民の集い

6月 7日(日) 10:00～15:00

場所:レストハウス前広場

山の手入れ、自由工作塾、ネイチャーゲーム(自然と遊ぼう)

◎展示会

場所:レストハウス (ボード展示)

第 19 回 ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展 6月 12日(金)～7月 1日(水)



第19回ひろしま遊学の森

こども写生大会 作品展